



文苑

雜詠

盛岡中津川

河鹿鳴き遠くに夜のざわめける
酔ふて夜春を送れば河鹿なく

瑞山にて

杉森の豊かな村居蟬時雨

汽車噴火灣に沿ふて走る

石おける屋根一筋の町暑き

蛇沼農場

高原を拓く年あり風薫る

祝開田

丹羽好日庵

松一木残して拓き陽炎へる
手車に兒をのせ置きて田打かな
帯觸れて尙も散る緋のさつき哉
下蒨の畦を馬引き歸るかな
夕月の春を灯せし藁屋かな
薪積んで道せばめあり桐の花